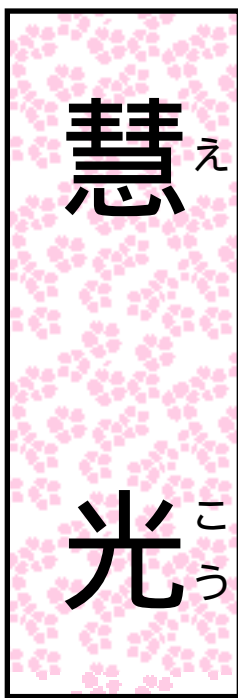




木村袖音(ゆの)ちゃん初参式 (6月15日撮影)



金光寺寺報
第169号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば

私が 私であって よかったといえる 私になれ

40歳でご往生された中島みどりさんは、悪性リンパ腫と診断され、激痛の中でご主人と二人のお子さんに、妻として、また母として、渾身の力で愛情のこもった言葉をつづり、思いの全てを伝えていかれました。中島さんは、ご自身で次のようにお子さん達に伝えておられます。私が私であってよかったといえる私は、お金持ちになったり、健康だからよかったといえるようになったとか、そんなことではないのです。...中略...お金がなくても病気をしてもいろんなことをするなかで、いつでも、どんなときでも、「私が私でよかったといえるあなたになれ」と呼びかけてくださる方があった。その呼び声を聞くということが、人間のいちばん大事な願いではないでしょうか。そのお方こそ親鸞聖人だと私は思います。だから「お母さんは、お母さんでよかったと思っています」、お母さんは親鸞

様が大好きです
自分の人生に「あれがなかった」「これがない」と言い出せば、それこそキリがないわけですが、彼女の言葉は、むしろ自分には何が恵まれているのか、そちらに目を向けることの大切さを教えています。こうした発想の転換は、ご法義を聞く者に具わっていく仏の智慧であるといえます。そして、この苦難を転換する智慧を与えて、その人生を護念し続ける方、それが阿弥陀さまなのです。
中島さんという方はその阿弥陀さまに確かに出遇い、苦難を転換する智慧を得て、「私が私であってよかった」と見事に自分の人生を引き受けていかれた珠玉の念仏者です。
(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

7月 17日(金)~19日(日)

8月 9日(日) 終日

9月 10日(木) 終日
13日(日) 終日
23日(水) 終日

2016(平成28)年

2月 20日(日) 終日

6月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2015年 6月30日寂 満94歳
原尾野 藤田 シカノ 様
2015年 6月30日寂 満72歳
渡瀬 大鶴 良夫 様

ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
7月6日現在 アクセス数 75,952人

先月の寺報が完成したのが、女子ワールドカップカナダ大会が始まった時でした。そして、今日、この欄の編集を終えると今月号が完成します。今日は決勝戦が行われました。残念ながら日本は連覇ならず準優勝に終わりましたが、このひと月、彼女たちの活躍は雨で滅入りそうな気分を爽やかなものにしてくれました。昨夜見たテレビは日本チームの現キャプテン宮間あや選手と前回大会のキャプテン澤穂希選手にスポットを当てていました。現キャプテン宮間さんのキャプテンとしての苦悩を伝えながら、宮間さんをそして日本チームを控え選手として支える澤さんの姿を映していただきました。その姿勢が日本チームの快進撃につながっているのだらうなと思ったことでした。残念ながら結果でした。しかし、宮間キャプテンが決勝前日のインタビューで語った言葉、「優勝する」という文化に変わることは、結果が準優勝であっても起るだろうと感じた素晴らしい決勝戦でした。
(住職 松井卓郎)

住職ひとりごと

仏教用語豆辞典

梅 檀

「梅檀は双葉より芳し」という諺があります。この「梅檀」とは、古代インド語の「チャンダナ」の音写で白檀(びやくだん)のことです。南方の木にしては材質がよく、工芸細工にも適していますが、

何といつても素晴らしいのは、その香りです。「太平記」に「梅檀の林に入る者は、染めざるに衣自ら香し」と言っているほどです。学僧が集まって修行勉強するところを「梅檀林」「檀林」というのも、ここからきました。お釈迦さまはこの梅檀の木で火葬にされたといわれています。強烈な悪臭を放つ伊蘭草(いらんそう)の林の中に、梅檀の中でも最も香気の強い牛頭梅檀(ごずせんだん)が生えると、たちどころに伊蘭草の悪臭が消

え去ると、仏典は説いています。そして、牛頭梅檀は、煩惱を消し去る念仏のはたらきに喩えていると教えています。梅檀と同様に、大成する人は幼いときからそのきざしがあるという諺です。ウチの子は、そのきざしが見えない?心配いりません。「大器晩成」という諺もありますから。
(本願寺出版社発行 辻本敬順著 仏教用語豆辞典一〇〇パート一から)

兵戈無用の世界を

今月七日は二十四節気の「小暑」、二十三日は「大暑」です。もうそろそろ夏本番の暑さの訪れを感じてもいい頃なのに、朝夕は寒いですね。いまだに長袖のポロシャツを着ています。通常だと考えられないこと。加齢によるものかと思つていたら、会う人、会う人「さみしいのー」と言われますので、いまだ寒いのは自分だけではなく、また、加齢によるものでもないんだと安心しました。

先月三十日朝、「ようやく今月はご門徒さまご往生が無い月だ」と思つたところ、お昼前、午後九時半過ぎ、立て続けにご往生の連絡がありました。

は還相回向のはたらきをもつて、安養の浄土から尊いお導きをお願いいたしますと、ただお念仏申しあげるばかりです。

さて、今、国会で「安全保障法制」の審議が行われています。皆さんはどのようにお考えでしょうか？

私は昭和三十二年生れです。戦争を知らない世代です。「戦争を知らない子供たち」という唄を歌つて青春時代を過ごした能天気な戦後世代の一員です。しかし、先の大戦を経てあつた今の平和、今の民主主義を守つていかなければならないと思つています。その平和、民主主義は尊い

命を失われた多くの方々の犠牲の上にあるもので、その犠牲を無駄にしないためにも、戦争を知らない私たちが必死にこの平和・民主主義を絶対守るんだという声を上げなければならぬと思つています。

六月二十五日付け朝日新聞天声人語欄に次の記事がありました。

「八六と八九は広島と長崎に原爆が投下された日、八一五は終戦、五三は新憲法施行の日と分かった。では冒頭の六二三は……。パソコンで検索して沖縄戦終結の日であることを知つた」

歌は朝日歌壇賞を受賞された西野防人さんの一首、「書きは朝日新聞声欄に乗った八十四歳の方の投書でした。

沖繩、広島、長崎はもろのんこと、日本全国の方々、海外にいた日本人、日系の方々など多くの人が戦争の犠牲になられました。瀬戸内寂聴さんのお言葉「どんな戦争もい戦争はないのです」にうなずくばかり。

「仏の遊履したまふところの国邑・丘聚、化を蒙らざるはなし。天下和順し日月清明なり。風雨時をもつてし、災厲起らず、国豊かに民安くして、兵戈用ゐることなし」

「兵戈無用(武器を取つて争つことなし)」の世界の実現こそが今の私たちに求められるものだと思います。

法語の世界

《原文》

蓮如上人へ、ある人安心のとほり申され候ふ。西国の人と云々。安心の一通りを申され候へば、仰せられ候ふ。申し候ふことくの心中に候はば、それが肝要と仰せられ候ふ。(蓮如上人御一代記聞書 百八十二)

《現代語訳》

蓮如上人に対して、西国から来たという人が、安心について受けとめているところを申しあげたとき、上人は、「心中が今いわれた通りであるのなら、それがもっとも大切なことである」と仰せになりました。

《用語の解説》

- 安心……信心のこと。本願を信じて疑いのないこと。
- 一通り……あらまし。一部始終。
- 肝要……最も大切なこと。かなめ。

何の花でしょう？



丁子の松岡綾子さんから花の写真をいただきました。何の花かなと思つたら「こんにやく」の花だそうです。長男の巧さんが撮影されたそうで、良かったら寺報に掲載してくださいと写真の提供をいただきました。ありがとうございます。

7月の二十四節気と七十二候

- 小暑(しょうしょ・7月7日) 梅雨が明け、暑さが本格的になる頃。
- 温風至(あつかぜいたる・初候・7月7日~12日頃) 雲の間から注ぐ陽がだんだんと強くなる頃。
- 蓮始開(はすはじめてひろく・次候・7月13日~17日頃) 蓮がゆっくりと蕾を開き、花を咲かす頃。
- 鷹乃学習(たかすなわちわざをならう・末候・7月18日~22日頃) 5・6月に孵化した雛が、巣立ちの準備をする頃。
- 大暑(たいしょ・7月23日) 一年でもっとも暑さが厳しく感じられる頃。
- 桐始結花(きりはじめてはなをむすぶ・初候・7月23日~27日頃) 桐が花を咲かせる頃。
- 土潤溽暑(つちうるおうてむしあつし・次候・7月28日~8月1日頃) 熱気がまとわりつく蒸し暑い頃。
- 大雨時行(たいうときどきふる・末候・8月2日~7日頃) 夕立や台風などの夏の雨が激しく降る頃。